

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成18事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成19年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

○大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、NP（ナースプラクティショナー〈高度実践看護師〉）への取組やウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加などは、全国的にも例がなく、実施に相当の困難が伴うと思われる項目にも関わらず、計画を上回って実施されていることを積極的に評価し、また、ウェブ及びDVDを用いた看護技術の自己学習システムの整備、英語教育のCALL（コンピュータを使用した自己学習システム）の推進や大分大学との遠隔講義の推進などで計画を上回る実施状況にあることから、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。

○その他の大項目で特筆すべき事項は「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目において、平成18年度に教員評価制度を導入するとともに教員評価を実施し、評価結果を平成19年度の教員の昇任に利用していること、また、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目において、光熱水費等の管理的経費について個別に削減対策を定め、積極的な取組を教職員に様々な場で周知徹底した結果、平成18年度は前年度比で12.76%減となっていることなどがあった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

（委員会からのコメント）

- ・地方独立行政法人化した大分県立看護科学大学の運営は、中期目標を立て、その上で年度ごとの計画を立てその業績をチェックしていく枠組みだが、その滑り出しである1年目は非常に順調に進んでいる。中期目標の達成に向けてさらにこの枠組みの中でより成果が出るように期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、170項目全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 「大項目評価にあたり勘案した事項」に示したように、NP（ナースプラクティショナー）への取組やウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加などは、全国的にも例がなく、実施に相当の困難が伴うと思われる事項にも関わらず、計画以上の成果を上げている。
- また、ウェブ及びDVDを用いた看護技術の自己学習システムの整備、英語教育のCALL（コンピュータを使用した自己学習システム）の推進や大分大学との遠隔講義の推進などで計画以上の成果を達成した事項も見受けられた。
- 他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。
（ ）は小項目の記号【 】はウエイト付け
- 大分大学との遠隔講義の推進 (I-1-(1)ア(ア)a~c-3)
・大分大学とワーキンググループを設置して遠隔講義の進め方を検討し、遠隔講義を試行した。平成19年度からは双方で遠隔講義を発信し、遠隔講義によって単位履修することが可能になっている。
- CALLシステムを必修科目に取り入れるための準備 (I-1-(1)ア(ウ)a-1)
・CALL学習を必修科目に取り入れた。システム導入の一環として、1年次生全員にCALL学習前後の2回のTOEIC IP試験を受験させた。
- 大学院の専門教育としてのNPプロジェクトの推進 (I-1-(1)イ(ア)b-2)【2】
・NPの教育を平成20年度から開始するためのカリキュラムを作成し、モデル地区の検討を行った。6名の教員を米国にそれぞれ1ヶ月間派遣し、NP教育の現状調査と情報交換を実施した。また、文部科学省の競争的資金：平成19年度大学教育国際化推進プログラムに「21世紀型のナースプラクティショナー教育－韓国・米国に学ぶ国際的水準の実践型教育の構築を目指して－」が採択され、文部科学省から支援を受けることが決まった。
- NPプロジェクトについてのPR活動 (I-1-(1)イ(ア)c-4)【2】
・日本医事新報への「日本におけるナースプラクティショナー（高度実践看護師）の実現を目指して」の論文の掲載、「日本におけるNPの実現を目指して」をテーマにした国際会議の開催により、広く社会に活動を認知させた。

- 実践家養成のための大学院教育に向けた改革案の検討開始 (I-1-(1)イ(ア) f-3)
 - ・修士課程を研究者養成コースと実践者養成コースに分け、コース設置に向けた教員養成、地域医療機関の協力など数々の課題を検討し、実現できる見通しを得た。
- ウェブ及びDVDを用いた看護技術の自己学習システムを整備するための事前調査 (I-1-(2)ウ a-2)【2】
- 看護技術自習用DVDの作成 (I-1-(2)ウ a-3)【2】
 - ・映像を利用した自己学習システムとして、蘇生法、静脈血採血、点滴静脈内注射、など6種類のコンテンツを作成し、DVDを作成するとともに、学生ウェブに掲載して、学生が学内のどこからでも利用できる看護技術習得プログラムを完成した。
- 平成19年度後期に本運用を想定した遠隔授業プログラムの実施 (I-1-(2)ウ c-2)
 - ・後期からの試行により、遠隔授業システムのハード・ソフト面での調整を行った。
- 介護予防プロジェクトの地域拡大 (I-2-(1)ア a-2)【2】
 - ・「お元気しゃんしゃん体操」などをとおして、大分市を始め県内の市町村に拡大させた。
- 研究成果の総合的な評価法の作成 (I-2-(2)イ a-3)
 - ・客観的データで採点できる項目（論文発表など）と研究の質や努力を考慮した自己評価と他者評価からなる総合的な評価システムを構築した。
- ONPプロジェクトのための連携の強化 (I-3-(2) a-1)【2】
 - ・6名の教員を米国にそれぞれ1ヶ月間派遣し、NP教育の現状調査と情報交換を実施した。また、韓国のソウル大学看護学部、カトリック大学医学部の各教授を招へいし、「日本におけるNPの実現を目指して」のテーマで開催した国際会議では、大分県医師会の後援を得るなど医師会との関係を築くことができた。
- ウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加 (I-3-(2) b-1)【2】
 - ・タシケントの看護教育センターにおいて、看護職研修会及び教員指導を行うため、現地に教員を派遣した。テレビ会議（本学とウズベキスタンJICA事務所の間で）を定期的に行い、カリキュラムの改善指導を行った。本プロジェクトでは、看護科学大学の看護系教員が中心となって活動しており、プロジェクトの推進に大きく貢献した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	118 (4)			110	8(4)
研究	25 (1)			23	2(1)
社会貢献	27 (2)			25	2(2)
合 計	170 (7)			158	12(7)
ウエイト考慮 後の合計	177			158	19

() はウエイト付けした項目数

※小項目170項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 「NPプロジェクトは、まだ、日本に制度がなく難しさがある中で進められており、しかも私学ではなく公立でというのは特記すべき事項である。」
- 「NPプロジェクトやウズベキスタン看護教育改善プロジェクトのように全国的にも初めてであり、他に同様のものがないものについては、より積極的に評価してよいのではないか。」
- 「県内就職率に関しては県外出身者が多い年が結構あり、目標を一律に「県内就職率を50%にする」のがいいのかというのも問題になる。」
- 「県内が就職先として選ばれる環境を作る努力を続けなければならない。」

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、20項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 「大項目評価にあたり勘案した事項」に示したように、平成18年度に「教員業績評価制度」を導入しており、実際に教員の昇任に利用したことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。
（ ）は小項目の記号
- 「教員業績評価制度」の平成18年度中の導入 (Ⅱ-2-(2) a, c-1)
・他大学の調査を踏まえ、教員評価制度を導入した。評価対象期間は、1月から12月までとし、平成18年度に教員評価を実施した。
 - 「教員業績評価制度」の研修会の実施 (Ⅱ-2-(2) a, c-2)
・教員評価制度について、評価の目的、評価項目、基準、進め方の研修会を実施した。教員評価の実施に当たっては、Q&Aを作成し、学内ウェブに公開した。評価結果は各教員に通知するとともに、結果に応じて改善点を指示した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
運営体制	11			11	
人事の適正化	9			7	2
合計	20			18	2

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目20項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、23項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 「大項目評価にあたり勘案した事項」に示したように、教職員への周知徹底により光熱費を削減したことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。
（（ ）は小項目の記号【 】はウエイト付け）
- 管理的経費の個別の削減対策を定めて教職員に周知徹底 (Ⅲ-1 e-1) 【2】
 - ・光熱水費等の管理的経費について個別に削減対策を定め、積極的な取組を教職員に様々な場で周知徹底している。また、電気、水道及びガス料金については、毎月削減状況を学内ウェブに掲載した。
 - 平成18年度は前年度比5%減を目安に経費節減 (Ⅲ-1 e-2) 【2】
 - ・平成18年度は前年度比で12.76%減となった（光熱水費3.16%（使用量で7.57%）減、印刷消耗品費15.05%減、通信運搬費36.79%減）。

【小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	13(2)			11	2(2)
外部資金等の 獲得	5			5	
資産の適正管 理・有効活用	5			5	
合 計	23(2)			21	2(2)
ウエイト考慮 後の合計	25			21	4

() はウエイト付けした項目数

※小項目23項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○「光熱費等についてこれだけの節減ができたのは、いろいろな方策を使った努力の成果であると思う。」

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、11項目が全てⅢの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	1			1	
情報公開	10			10	
合計	11			11	

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目11項目の全てがⅢの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、17項目が全てⅢの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1			1	
安全管理	12			12	
モラル・人権 啓発推進	4			4	
合計	17			17	

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目17項目の全てがⅢの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。